

令和4年度年報

2023. 6

群馬県立土屋文明記念文学館

2022

目次

1 沿革	
(1)沿革	1
(2)令和4年度の主なできごと	2
2 施設概要	4
3 管理運営	
(1)組織及び職員	4
(2)利用者数	5
(3)歳入歳出(決算)の状況	6
(4)修繕	6
(5)備品	6
4 展示活動	
(1)常設展示	7
(2)企画展示	11
(3)移動展	15
(4)ミニ展示	18
(5)特別展示	18
5 教育普及活動	
(1)企画展記念講演会	19
(2)企画展関連行事	20
(3)土屋文明記念文学講座	22
(4)群馬県文学賞	
受賞記念講演会・受賞作品展.....	23
(5)学校教育との連携	24
(6)地域との連携	26
(7)子ども向け事業	27
(8)ボランティア活動	28
(9)自主学習会	28
(10)広報活動	29
(11)刊行物の発行	32
6 資料収集・調査研究	
(1)資料収集	32
(2)資料の整理・保存管理	33
(3)資料貸出	34
7 利用案内・位置図	
(1)休館日	35
(2)開館時間	35
(3)企画展観覧料	35
(4)施設利用料	35
(5)位置図	36

1 沿革

(1)沿革

1981(昭和56)年	10月	県内文学団体により近代文学館設立期成会議結成
1983(昭和58)年	4月	群馬県教育委員会が昭和58年度予算に文学館建設調査費計上
1985(昭和60)年	12月	近代文学資料等調査検討委員会(20名)を設置
1988(昭和63)年	2月	近代文学資料等調査員(12名)を設置
1990(平成2)年	12月	土屋文明逝去
1991(平成3)年	4月	近代文学資料室を設置
同	7月	土屋文明遺族より群馬町に資料の寄付申込み
同	同	群馬県生涯学習センター内に土屋文明資料展示室設置
同	11月	群馬町から県に「土屋文明記念館」建設の陳情
1992(平成4)年	4月	群馬町に記念文学館建設調整室設置
1993(平成5)年	1月	建設推進委員会(9名)を設置
同	3月	文学館建設基本構想策定
同	4月	群馬県教育委員会文化振興課に建設準備係(5名)設置
1994(平成6)年	2月	都市計画公園事業の大臣認可
同	3月	建築実施設計
同	4月	文学資料整理作業室を県立図書館内に設置
同	12月	上毛野はにわの里公園占用許可
同	同	建築工事開始
1995(平成7)年	12月	建築工事終了
1996(平成8)年	2月	文学資料の移送搬入
同	3月	展示工事完了
同	4月	群馬県立土屋文明記念文学館設置及び管理に関する条例施行
同	同	群馬県立土屋文明記念文学館組織発足
同	7月	伊藤信吉館長就任(※空白期間は群馬県教育委員会事務局幹部職員が兼務)
同	同	開館
1998(平成10)年	5月	天皇皇后両陛下下行幸啓
1999(平成11)年	8月	『群馬文学全集』全20巻刊行開始(～平成14年度)
2002(平成14)年	8月	伊藤信吉館長逝去
2006(平成18)年	7月	開館10周年記念展「ぐんま文学の森」(12月)ほか
2008(平成20)年	8月	秋篠宮殿下、同妃殿下、眞子内親王行啓
2012(平成24)年	3月	入館者50万人達成
2016(平成28)年	10月	開館20周年記念展「角田柳作とドナルド・キーンー群馬から世界へー」
2020(令和2)年	4月	社会教育に関する教育機関及び文化財保護に関する事務が群馬県教育委員会から 群馬県知事部局に移管
2021(令和3)年	7月	開館25周年記念展「宮沢賢治ーみんなのほんとうのさいわいをさがしにー」

(2)令和4年度の主なできごと

- 4 月 1 日 新年度開始 浅見英朗館長就任
- 4 月 16 日 第 115 回企画展「落語と文学」オープン
同 展示解説 1
- 4 月 17 日 落語会 1「にゅう」「探偵うどん」(立川がじら氏)
- 5 月 3 日 創作落語「焼きまんじゅうろう旅姿～玉村宿の決闘」1(都家前橋氏)
- 5 月 8 日 落語会 2「出来心」「野ざらし」(柳家小もん氏)
- 5 月 15 日 創作落語「焼きまんじゅうろう旅姿～玉村宿の決闘」2(都家前橋氏)
- 5 月 16 日 高崎市立群馬南中学校の生徒が職場体験で来館(5 月 20 日(金)まで)
- 5 月 22 日 展示解説 2
同 ミュージアムショップにて土屋文明「青き上に」一筆箋専用封筒発売
- 5 月 26 日 高崎市立堤ヶ岡小学校の児童が校外学習で来館
- 5 月 28 日 入館時健康状態申告書の廃止、マスク着用の緩和※
- 6 月 1 日 観覧料の支払いにキャッシュレス決済を導入
- 6 月 4 日 落語会 3「加賀の千代」「青菜」(春風亭一之輔氏)
- 6 月 10 日 渋川市立渋川北小学校の児童が校外学習で来館
- 6 月 12 日 展示解説 3
同 落語展クローズ
- 6 月 17 日 高崎市立上郊小学校の児童が校外学習で来館(7 月 8 日(金)も)
- 6 月 20 日 燻蒸(常設展示室)休館(6 月 29 日(水)まで)
同 消防総合訓練(AED)
- 6 月 24 日 講演会や展示解説は、定員 100%の実施とする※
- 7 月 6 日 群馬県立高崎高等学校の生徒が進路学習で来館
- 7 月 16 日 第116 回企画展「ようこそ絵本の世界へ」オープン
同 展示解説 1
同 三館スタンプラリー開始(9月 19 日(月・祝)まで)
同 「絵本のひろば」を時間、人数制限を設けた上で開放※
- 7 月 18 日 群馬テレビ18時、20時のニュースで絵本展紹介
- 7 月 24 日 記念講演会「絵本を描くということ「わたしのワンピース」について」(西巻茅子氏)
- 8 月 6 日 展示解説 2
- 8 月 7 日 ワークショップ「巨大絵本をつくろう」(アトリエヤマダ)
同 ワークショップ「出張図工室チョキペタス」(アトリエヤマダ・中庄)
- 8 月 11 日 「わたしのワンピース」試着イベント 1
- 8 月 14 日 クラリネットとピアノによるロビーコンサート 1(神戸圭介氏、神戸道子氏)
- 8 月 25 日 学生による読み聞かせ(共愛学園前橋国際大学短期大学部)
- 9 月 4 日 展示解説 3
同 「わたしのワンピース」試着イベント 2

- 9 月 11 日 ワークショップ「紙折り絵本をつくろう」(野村たかあき氏)
- 9 月 18 日 第 1 回土屋文明記念文学講座「ことばの力ー言葉で思いを伝えること」(永田和宏氏)
- 9 月 19 日 クラリネットとピアノによるロビーコンサート 2(神戸圭介氏、神戸道子氏)
- 同 絵本展クローズ
- 9 月 22 日 土屋文明オリジナルクリアファイル作成
- 10 月 8 日 第 117 回企画展「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」オープン
- 同 展示解説 1
- 同 高崎市立上郊小学校書道優秀作品展示オープン(10 月 16 日(日)まで)
- 10 月 16 日 高校生によるマンドリンコンサート(群馬県立高崎高等学校・群馬県立高崎女子高等学校マンドリン部)
- 10 月 30 日 記念講演会Ⅰ「萩原朔太郎「郷土望景詩」についてー「才川町」を中心としてー」(野呂芳信氏)
- 11 月 3 日 記念講演会Ⅱ「詩とともに生きる」(松下育男氏)
- 11 月 7 日 高崎市立群馬中央中学校の生徒が職場体験で来館(11 月 11 日(金)まで)
- 11 月 13 日 記念講演会Ⅲ「上州から始まる詩の魅力」(蜂飼耳氏)
- 11 月 20 日 展示解説 2
- 11 月 27 日 朔太郎と群馬の詩人を歌うⅠ「文士の作品に曲をつけて歌う「文学とフォーク」」(世田谷ピンポンズ氏)
- 11 月 28 日 高崎市立中尾中学校の生徒が職場体験で来館(12 月 1 日(木)まで)
- 12 月 4 日 朔太郎と群馬の詩人を歌うⅡ「朔太郎をめぐる“ミュージック・ミュージアム”」(西田直嗣氏ほか)
- 12 月 10 日 展示解説 3
- 12 月 18 日 大全クローズ
- 1 月 21 日 第 118 回企画展「文学者の愛用品ー7Bの短くなるを愛しつつ使ふー」オープン
- 同 展示解説 1
- 2 月 1 日 ミニ展示「第 60 回 群馬県文学賞 受賞作品」オープン(3月21日(火・祝)まで)
- 2 月 11 日 第 60 回 群馬県文学賞 受賞記念講演会
- 2 月 12 日 ワークショップ「チョコレートみたいなマグネットをつくろう」(萩原貴子氏)
- 2 月 19 日 展示解説 2
- 2 月 26 日 記念講演会「祖父・土屋文明の思い出」(土屋安見氏)
- 2 月 25 日 『古今和歌集』・『新古今和歌集』写本特別公開(3月5日(日)まで)
- 3 月 4 日 第 2 回土屋文明記念文学講座「戦争と短歌」(坂井修一氏)
- 同 入館時検温は個人の判断とする※
- 3 月 11 日 展示解説 3
- 3 月 13 日 ミュージアムショップの会主催 群響アンサンブル『心に響く音楽会 in 文学館』
- 同 講演会、展示解説、ワークショップの定員、入館制限廃止※
- 3 月 21 日 愛用品展クローズ
- ※新型コロナウイルス感染症対策

2 施設概要

(1)設置の目的

土屋文明の業績を記念し、文学に関する県民の理解を深め、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。

(2)設立

- ・平成8年7月11日開館
- ・平成11年6月3日博物館登録

(3)所在地

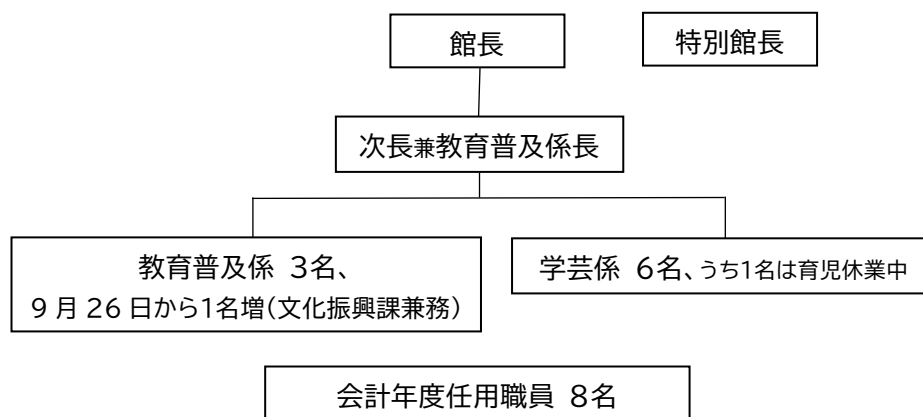
群馬県高崎市^{ほ ど た}保渡田町 2000 番地^{か み つ け の}(上毛野はにわの里公園内)

(4)設備等

- ・用地面積 2,465.61 m²
- ・建物構造 鉄筋コンクリート造り2階建て
- ・建物面積 延床面積 3,171 m²
- ・主要施設 常設展示室(396.8 m²)、企画展示室(279.5 m²)、映像展示室(65.9 m²)
閲覧室(62.1 m²)、研修室(289.1 m²)、創作室(和室)(43.6 m²)
収蔵庫(152.2 m²)、書庫(222.3 m²)、レストラン、ミュージアムショップ
- ・建 設 費 約27億円
- ・駐 車 場 普通車50台、大型バス5台、身障者用2台

3 管理運営

(1)組織及び職員



(2)利用者数

① 入館者数

区分	有料観覧者								無料観覧者					観覧者計 A	教育普及事業		計 A + B + C	うち企画 展開連	その他 施設利 用 D	計 A + B + C + D		
	一般（個人）		大高（個人）		一般 （団 体）	大高 （団 体）	共通 バス	小計	中学 以下	障害者	減免	引率 介護	招待		小計	館 内 B					館 外 C	
	通常	割引	通常	割引																		
常年間開館日数 268日間	4, 144	535	196	2	169	0	152	5, 198	2, 094	358	192	346	1, 941	4, 931	10, 129	3, 683	11, 741	15, 424	25, 553	1, 472	5, 313	30, 866

<企画展>観覧者に常設展のみ観覧者は含まない

区分	有料観覧者								無料観覧者						観覧者計	教育普及事業企画展開連
	一般（個人）		大高（個人）		一般（団体）	大高（団体）	共通バス	小計	中学以下	障害者	減免	引率介護	招待	小計		
	通常	割引	通常	割引												
第115回企画展 落語と文学 4/16～6/12 50日間	547	70	18	0	25	0	14	674	286	49	0	41	438	814	1,488	522
第116回企画展 ようこそ絵本の世界へ 7/16～9/19 58日間	2,562	256	107	2	0	0	73	3,000	1,640	199	0	168	741	2,748	5,748	499
第117回企画展 萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人 10/8～12/18 62日間	437	76	27	0	144	0	32	716	46	48	348	25	311	778	1,494	344
第118回企画展 文学者の愛用品－ 7Bの短くなるを愛し つつ使ふ－ 1/21～3/21 52日間	320	106	32	0	0	0	27	485	52	50	37	86	256	481	966	107

② 閲覧室利用者

書庫資料閲覧		複写		調査相談件数			閲覧室利用者数
人数	冊数	件数	枚数	口頭	電話	文書	
22名	164冊	14件	198枚	6件	0件	0件	
							224名

③ レファレンス

レファレンス件数	うち土屋文明について
22件	8件

④ 貸室等利用者

企画展示室		研修室		和室		総計	
件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数
—	—	42件	881名	—	—	42件	881件

⑤ ホームページアクセス数

年間アクセス件数	一日平均アクセス件数
20,272件	56件

詳細については別記(5.(10)広報活動 参照)

(3)歳入歳出(決算)の状況

(単位:千円)

区分	金額	内容
歳入	4,875	
観覧料	2,239	
施設使用料	1,196	レストラン、研修室等
施設使用光熱水費	550	レストラン
その他	890	書籍販売等
歳出	73,298	
管理運営	53,193	文学館の維持管理
資料展示	12,962	常設展示メンテナンス、企画展示
資料購入	605	
資料管理	5,012	資料保存、情報システム
教育普及活動	1,526	文学講座等教育普及事業

常勤職員の人件費は含まない。

(4)修繕

	修繕項目	工期
1	屋内消火栓設備改修工事(流量計)	6月17日～8月8日
2	電話設備改修工事	7月20日～9月6日
3	2階研究室系統空調設備更新工事	12月16日～2月3日
4	2階喫茶室冷蔵庫更新工事	12月9日～1月18日
5	不活性ガス消火設備非常電源(蓄電池設備)修繕	12月1日～3月16日

(5)備品

主な購入備品

	購入備品	個数
1	大型液晶テレビ	1
2	テレビスタンド	1
3	レストラン業務用冷凍冷蔵庫	1
4	ミニシアター用DVD	5

収集対象資料(図書・雑誌・特別資料等)については別記(6.(1)資料収集 参照)

4 展示活動

(1)常設展示

常設展示室では、歌人・土屋文明(1890－1990)の作品と生涯を紹介し、中央の「短歌の世界」コーナーでは、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』をはじめとした貴重な資料や、『万葉集』時代から近代までの歌人たちの人形により和歌・短歌の世界に触れることができる。

① 土屋文明－その作品と生涯－

文明の作品と生涯をたどる6章で構成されている。

◇ 第1章 榛名山のふもとで育つ－『アカネ』への投稿－

土屋文明は、現在の高崎市保渡田町に生まれ、伯父夫妻に預けられて育ち、上郊尋常小学校から旧制高崎中学校に進学。蛇床子じゃしょうしの名で短歌を発表し同校の国漢教師・村上成之しげゆき へいぎよ(蛎魚)の紹介で、伊藤左千夫を頼って1909(明治42)年4月に上京した。

◇ 第2章 東京から長野へ－短歌と小説と教職と－

上京した年の秋、文明は旧制第一高等学校に入学し、東京帝国大学哲学科に進学後は、山本有三、芥川龍之介、菊池寛などの若き文豪たちと交流し井出説太郎の名で小説も発表した。東京帝国大学を卒業後、1918(大正7)年、島木赤彦の推薦で諏訪高等女学校に赴任、教育者として長野県の諏訪・松本で6年の歳月を過ごした。その後、上京して、1925(大正14)年には第一歌集『ふゆくさ』を出版した。

◇ 第3章 歌壇の中枢に一写生、破調、「思想的抒情詩」－

1930(昭和5)年3月、斎藤茂吉に代わり『アララギ』の編集発行人となり、選歌、校正、雑誌の発送、面会による歌稿の添削、歌評会の設定など精力的に会員を導いた。一方、工場や鉄道などの近代的風物を、極端な字余り、破調で表現するなどを試み、代表作の一つである第三歌集『山谷集』さんこくしゅうを出版する。

◇ 第4章 万葉集研究の継続－自らの足で感じる－

万葉集研究は、『古今和歌集』を攻撃して『万葉集』を賞揚した正岡子規の流れを汲む短歌結社「アララギ」に引き継がれる重要テーマであり、文明は戦中から戦後にかけて万葉ゆかりの地をよく歩き、その成果は4,500首以上ある『万葉集』の全歌注釈である『万葉集私注』(全20巻、1949－1956年)に結実した。

◇ 第5章 川戸への疎開－敗戦と第二芸術論に抗して－

空襲で青山南町(現・東京都港区南青山)の家を焼失した文明は、1945(昭和20)年6月、吾妻郡原町

川戸(現・東吾妻町)に疎開した。敗戦後の虚無感や、俳句・短歌を芸術以下の「第二芸術」と貶める論調に抗し、短歌や言葉の重要性を擁護する力強い作品を生み出す。自給自足の生活を送りながら、川戸を起点として『アララギ』の復興、地方アララギ誌の創刊などに力を注いだ。

◇ 第6章 東京南青山での日々ー歌壇の最長老にー

1951(昭和26)年11月、疎開地から南青山に戻ってきた文明は、1953(昭和28)年に宮中歌会始の選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。晩年まで、作歌はもちろん『アララギ』や新聞の選歌にも力を注ぎ、96歳で文化勲章を受章、1990(平成2)年、満100歳で歌に捧げたその生涯を閉じた。

☆ 移築書斎

新居の設計は弟子の歌人で清水建設の設計技師であった近藤芳美が行った。引戸がついた書棚や辞典類を広げるための出窓があり、隣接するサンルームから橙や方竹、川戸の山から移し植えた木などがある庭への出入りが可能であった。当館常設展示室内には、移築した書斎とサンルームが、外光を取り込む形で復元されている。

☆ 方竹の庭

移築書斎の窓の外には、南青山の文明旧宅から24種43本の樹木が当時の配置を参考にして移植され、文明の長女・草子^{かやこ}がこれを「方竹の庭」と名付けた。方竹とは、四角に近い断面を持つ竹、シホウチクのことである。

② 「短歌の世界」コーナー

常設展示室中央部には、伝世尊寺定成筆『新古今和歌集 上』写本(鎌倉時代)をはじめ三大歌集(『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』)から現代短歌に至るまでの貴重な資料を展示している。

それらを取り囲む柱に、中学校、高校の教科書をベースにして当館が独自に選んだ「三十六歌人」の人数が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介している。

【資料点数】

200点

(①第1章15点、第2章29点、第3章26点、第4章24点、第5章29点、第6章26点、②51点)

※ 陶板画、書斎の遺品は含まず。

③ 映像展示室

1階ロビーの映像展示室では、5つのテーマから選んでビデオ映像を見ることができる。

- ・「万葉集 東歌紀行」(約 8 分)
- ・「土屋文明 ひととなり」(約 11 分)
- ・「短歌の世界 詠み継がれる歌ごころ」(約 11 分)
- ・「^{いのち}生命の讃歌－山村暮鳥・その詩と生涯－」(約 24 分)
- ・「ぶらり散策－文明と暮鳥－」(約 13 分)

また、本年度は1階ロビーの映像展示室を企画展に合わせた映像資料上映に使用した。

企画展名	内容等
「ようこそ絵本の世界へ」	DVD「わたしのワンピース」(にしまさかやこ／作) 「みずいろのながぐつ」(もりひさし／作 にしまさかやこ／絵) 「きんぎょのトトとそらのくも」(にしまさかやこ／作) 「14ひきのあさごはん」(いわむらかずお／原作) 「はらぺこあおむし」(エリックカール／作) 「銀河鉄道の夜」(宮沢賢治／原作 KAGAYA／作) 「げんきげんきのんたん いたいいたいのとんでけ～★」 (キヨノサチコ／原作) 「ころわん ちょうわん」・「ころわんと ころころ」 (間所ひさこ／作 黒井健／絵)
「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」	「群馬県内詩碑めぐり」(当館作成)
「文学者の愛用品－7Bの短くなるを愛しつつ使ふ－」	DVD「新潮社文庫アニメ文学館⑤舞姫・たけくらべ」 (日本アニメーション(株))より「たけくらべ」

④ 映像モニターの設置

常設展示室前に映像モニターを設置し、主に「3分でわかる！土屋文明」を常時上映した。

4月16日～6月12日の「落語と文学」開催期間中は、1階ロビー中央にて、柳家小もん氏の開幕口上を常時上映した。

⑤ 木製看板の設置

常設展示室前に木製看板を設置し、今年度から移動展に加わった「歌人 土屋文明」を紹介した。

⑥ 文学者の筆跡

1階ロビーのタッチパネルで群馬県ゆかりの文学者の直筆原稿や色紙、短冊などを見ることができる。

・村上鬼城(1865－1938 俳人)・田山花袋(1872－1930 小説家)・山村暮鳥(1884－1924 詩人)

- ・萩原朔太郎(1886－1942 詩人)・大手拓次(1887－1934 詩人)・土屋文明(1890－1990 歌人)
- ・高橋元吉(1893－1965 詩人)・萩原恭次郎(1899－1938 詩人)・吉野秀雄(1902－1967 歌人)
- ・伊藤信吉(1906－2002 詩人)

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

(2)企画展示

① 第 115 回企画展 「落語と文学」

◇ 期間:令和 4 年 4 月 16 日(土)~6 月 12 日(日) (開催日数 50 日)

◇ 趣旨・内容

日本の伝統芸能の一つであり、現在も多くの人に親しまれている落語。近代落語の祖である三遊亭円朝の口演速記は、二葉亭四迷をはじめ、明治の言文一致運動に影響を及ぼすとともに、それ自体が「文学」であるとも言われてきた。また、夏目漱石や太宰治ら近代作家の作品にも、落語の要素を見取ることが出来る。

本展では、近代文学作品を通して、「話す」落語と「書く」文学の繋がりを紹介した。野村たかあき作・柳家小三治監修の『らくごえほん』の原画展示や、立川がじら・柳家小もんの撮って出し落語の常時上映も行った。

◇ 展示構成

- 1.落語の歴史
- 2.三遊亭円朝と言文一致運動
- 3.近代作家と落語
- 4.野村たかあき『らくごえほん』

◇ 展示資料点数:約 100 点

◇ 主な展示資料

- ・三遊亭円朝演述『塩原太助一代記』
- ・『文章世界』1巻3号
- ・夏目漱石著『三四郎』
- ・野村たかあき文・絵/柳家小三治監修『らくごえほん』シリーズ
- ・野村たかあき『らくごえほん』シリーズ原画(野村たかあき氏蔵)



② 第116回企画展「ようこそ絵本の世界へ」

◇ 期間:令和4年7月16日(土)～9月19日(月・祝)(開催日数58日)

◇ 趣旨・内容

『わたしのワンピース』(西巻茅子/作)や『100万回生きたねこ』(佐野洋子/作)など、世代を超えて愛されている絵本をはじめ、大型絵本や仕掛け絵本、外国の絵本など、さまざまな絵本を展示。絵本の歴史や変遷、受容のされ方なども紹介した。

また、西巻茅子氏の「わたしのワンピース」リトグラフや、群馬県の絵本作家・野村たかあき氏の「ないたあかおに」原画も展示。子どもから大人まで幅広い世代に楽しんでいただけた。

◇ 展示構成

- I.日本の絵本史
- 1.絵本の源流
- 2.翻訳絵本とちりめん本
- 3.子ども向け絵本の歩み
- 4.絵雑誌の隆盛
- 5.戦時下の絵本と絵雑誌
- 6.戦後の絵本と絵雑誌
- 7.絵本の黄金期
- 8.絵本の広がり
- 9.絵本の現在

II.西巻茅子の世界

III.野村たかあきの世界



◇ 展示資料点数:約150点

◇ 主な展示資料

- ・にしまきかやこ「わたしのワンピース」リトグラフ(西巻茅子氏蔵)
- ・野村たかあき「ないたあかおに」原画(野村たかあき氏蔵)
- ・にしまきかやこ絵・文『わたしのワンピース』
- ・野村たかあき絵/浜田廣介作『講談社の名作絵本 ないたあかおに』
- ・デヴィッド・タムソン訳『花咲爺』
- ・ロバート・サブダ作/わくはじめ訳(原作ルイス・キャロル)『不思議の国のアリス』

③ 第 117 回企画展 「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」

◇ 期間:令和 4 年 10 月 8 日(土)~12 月 18 日(日) (開催日数 62 日)

◇ 趣旨・内容

萩原朔太郎没後80年を記念した全国的な共同展示「萩原朔太郎大全2022」の一環として開催。当館では、萩原朔太郎と同時代を生きた群馬の五詩人、山村暮鳥、大手拓次、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉に焦点を当て、彼らとの交流を軸に、詩集『月に吠える』から『氷島』へと至る萩原朔太郎の詩的変遷に迫った。

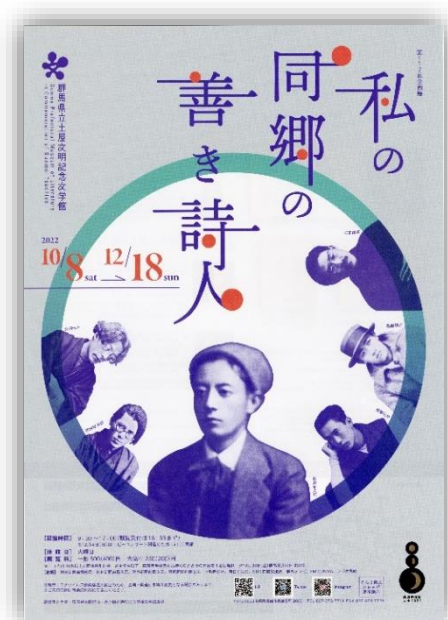
◇ 展示構成

- I. 詩壇登場まで
- II. 『月に吠える』へ
- III. 『青猫』のスタイル
- IV. 『純情小曲集』と追憶
- V. 『氷島』それ以後

◇ 展示資料点数:約 150 点

◇ 主な展示資料

- ・萩原朔太郎著『月に吠える』山村暮鳥宛献呈署名入
- ・萩原朔太郎葉書 萩原恭次郎宛 大正 12 年[推定]
- ・萩原朔太郎詩稿本「定本 青猫」
- ・室生犀星原稿「我が愛する詩人の伝記 山村暮鳥」(室生犀星記念館蔵)
- ・萩原朔太郎書簡 高橋元吉宛(萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館)
- ・萩原朔太郎詩稿「帰郷」(萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館)
- ・萩原朔太郎手記「創作ノート」(萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館)



④ 第 118 回企画展「文学者の愛用品－7Bの短くなるを愛しつつ使ふ－」

◇ 期間:令和 5 年 1 月 21 日(土)～3 月 21 日(火・祝) (開催日数 52 日)

◇ 趣旨・内容

筆や硯、ラジオやギター、帽子や着物など、文学者に愛され、大切にされてきた「モノ」。愛用品に目を向けると、それぞれの文学者の日常生活や趣味、感性などがうかがえる。

本展では、群馬県出身の土屋文明や山村暮鳥らを中心に、当館所蔵の文学者の愛用品をエピソードや作品とともに紹介した。また、日本近代文学館が所蔵する樋口一葉の文机や着物なども展示した。

◇ 展示構成

- I.山村暮鳥の愛用品
- II.土屋文明の愛用品
- III.吉野秀雄の愛用品
- IV.伊藤信吉の愛用品
- V.浅田晃彦の愛用品
- VI.樋口一葉の愛用品
- VII.さまざまな文学者の愛用品

◇ 展示資料点数:約 150 点

◇ 主な展示資料

- ・山村暮鳥のソフト帽、懐中時計、ボードレール詩集
- ・土屋文明の鉛筆(黒・朱)、羽織、平福百穂形見の硯
- ・吉野秀雄の算盤、盃、煙草盆
- ・伊藤信吉のカメラ、レコード、補聴器
- ・浅田晃彦のギター、ワープロ、矢立
- ・樋口一葉の文机、着物(日本近代文学館蔵)



(3)移動展

当館の展示資料を利用して、市町村、市町村施設(図書館、公民館等)、大学、学校等が主催し、当館が共催して移動展を開催した。

① 展示内容一覧(資料点数)

展示名	展示内容	資料点数
A 夢みる女性誌	明治から昭和30年代までの女性誌の変遷を通じて、女性誌のあり方、求められた女性の生き方などを紹介。	・雑誌と付録 242 点 ・パネル、バナー A3～B5判 42 点
B ぐんま文学の森	群馬県は、詩・短歌・俳句・小説など、ジャンルを問わず優れた文学者が生まれ、育ち、生活した土地柄。また、多くの文学者が訪れて優れた作品を残した。本展では、明治から現代までの群馬ゆかりの文学者 100 余名を、書籍や雑誌等の資料とともに紹介。	・約 150 点
C 紙芝居	紙芝居は、昭和5年頃に「黄金バット」「鞍馬天狗」などの街頭紙芝居として登場した日本特有の文化財。本展では、紙芝居のルーツを辿り、街頭紙芝居から教育紙芝居、外国人向け紙芝居など様々な紙芝居とその歴史を紹介。	・約 100 点
D 群馬の詩人	群馬県は、多くの近代詩人を輩出した土地柄として全国に知られている。本展では、湯浅半月、萩原朔太郎、大手拓次、山村暮鳥、萩原恭次郎ら51人の詩人について紹介。	・約 100 点 ・51 人×2枚 ・パネル100cm×90 cm
E 山村暮鳥 真実に生きようとするもの	「いちめんのなのはな」のフレーズを繰り返す「風景 純銀もざい」や「雲」の詩などで知られる詩人・山村暮鳥(1884-1924)は、現在の群馬県高崎市に生まれた。病と貧困に苦しみながらも、真実に生きることを求め続けた山村暮鳥について紹介。	・約 120 点
F 詩人 大手拓次 孤独の箱のなかから	群馬県安中市磯部出身の大手拓次(1887-1934)は、大学時代、フランス象徴詩との出会いを経て自らの詩論を確立。その口語による象徴詩は北原白秋や萩原朔太郎から高く評価された。孤独に、そして一途に最上の詩を求め続けたその詩業を紹介。	・約 100 点
G 文学者の書一筆に込められた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・約 90 点

H パネル いのちのえほん	平成13年に群馬県で開催された第16回国民文化祭の事業の1つとして詩画集『いのちのえほん』が発行された。特別支援学校に通う児童生徒が制作した絵画や立体作品に、松谷みよ子や永六輔ら著名人が詩やエッセイを寄せ、作品が収録された。本展では、これら全作品を印刷パネルにして紹介。	・パネル 122 点 ・パネルサイズ 22cm×60cm ・アルミ枠額装済
I パネル 童謡のふるさと 石原和三郎の世界	本展では、「うさぎとかめ」「はなさかじい」などの作詞で知られる勢多郡花輪村(現・みどり市)出身の石原和三郎を取り上げ、その多岐にわたる業績と生涯を豊富な写真と解説文(読みがな付)で紹介。	・B2パネル 19 点 ・アルミ枠額装済
J パネル 夭折の詩人 長澤延子 と中沢清	17歳と22歳という若さで亡くなった群馬県出身の2人の詩人、長澤延子(1932-1949)と中沢清(1932-1956)を取り上げる。昭和20年代に青春を過ごした2人は、それぞれ人生に真剣に向き合い、優れた詩を残した。本展では、2人の詩と人生を自筆資料(複製)を交えて紹介。	・B2パネル 12 点 ・アルミ枠額装済 ・原稿ノートの複製資料、約 30 点
K パネル 襄と八重の上州	「上毛かるた」でおなじみの新島襄(安中藩出身)とその妻・八重の群馬との関わりや、襄の精神を受け継いで各分野で活躍した人々(湯浅治郎、柏木義円、湯浅半月等)の業績を紹介。	・B2パネル 20 点 ・アルミ枠額装済
L パネル 文学者の書一筆に込め られた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・B2パネル 25 点 ・アルミ枠額装済 ・紐付き
M パネル 現代歌人27人が選ぶ 土屋文明短歌	令和2年度に開催した土屋文明生誕130年没後30年記念展の特別企画として作成したもの。俵万智、永田和宏など現在活躍する27人の歌人が土屋文明の秀歌を選び解説する。	・短歌ポンジ 24 点 150cm×30 cm ・A1パネル 27 点 解説、プロフィール
N タペストリー ぐんま文学の森	群馬県は、詩・短歌・俳句・小説など、ジャンルを問わず優れた文学者が生まれ、育ち、生活した土地柄。また、多くの文学者が訪れて優れた作品を残した。本展では、明治から現代までの群馬ゆかりの文学者 100 余名を、書籍や雑誌等の資料とともに紹介。	・タペストリー17 点 180cm×60cm プロフィール
O パネル 群馬の詩人	群馬県は、多くの近代詩人を輩出した土地柄として全国に知られている。本展では、湯浅半月、萩原朔太郎、大手拓次、山村暮鳥、萩原恭次郎ら51人の詩人について紹介。	・パネル 51 点 100cm×90cm 詩作品、プロフィール

P パネル 歌人 土屋文明	歌人土屋文明について主な業績を中心に紹介。写真やイラストを多用した親しみやすいつくりになっている。	・B2パネル 6 点 ・アルミ枠額装済
Q パネル 怪談－こわい話に花が咲く	明治大正期を中心に文豪怪談を紹介。夏目漱石、小泉八雲、芥川龍之介、谷崎潤一郎、室生犀星、宮沢賢治らの怪談作品を一部抜粋したもの。	・パネル A3～A1、変型 約 40 点(25 作品)

※ H～Q のパネル展は、学校・図書館等の一般施設でも展示できるよう工夫した。壁面展示に最適

※ A・G・H・L～Q は分割展示可能

※ D はパネルのみの展示も可

② 開催実績

展示名	開催期間	展示会場(施設名)	入場者数
いのちのえほん	5/27～6/27	高崎商科大学附属高等学校	500 名
文学者の書－筆に込められた思い	6/15～7/29	伊勢崎市あずま公民館	3,658 名
現代現代歌人27人が選ぶ土屋文明短歌 歌人 土屋文明	7/1～7/20	高崎商科大学附属高等学校	400 名
怪談－こわい話に花が咲く	7/1～8/24	太田市学習文化センター	878 名
いのちのえほん	7/1～8/31	渋川市徳富蘆花記念文学館	623 名
現代現代歌人27人が選ぶ土屋文明短歌 歌人 土屋文明	7/2～7/31	渋川市金島公民館	620 名
童謡のふるさと 石原和三郎の世界	7/25～8/5	前橋市清里公民館	655 名
裏と八重の上州	9/5～10/23	渋川市徳富蘆花記念文学館	401 名
群馬の詩人	10/14～10/15	群馬県立松井田高等学校	300 名
落語と文学	10/17～11/30	群馬県立利根実業高等学校	421 名
怪談－こわい話に花が咲く	10/21～12/2	群馬県立沼田女子高等学校	400 名
裏と八重の上州	11/1～11/23	高崎市榛名図書館	2,033 名
いのちのえほん	中止※	前橋市清里公民館	－
童謡のふるさと 石原和三郎の世界	3/11～3/12	嬬恋村三原多目的集会所	62 名
合計			10,951 名

(4)ミニ展示

展示名	開催期間	内容	点数
群馬県文学賞受賞作品展	2/1～3/21	令和4年度第60回群馬県文学賞受賞者4名の作品を展示した。	7点

(5)特別展示

展示名	開催期間	内容	点数
群馬県立土屋文明記念文学館所蔵『古今和歌集』・『新古今和歌集』写本特別公開	2/25～3/5	当館所蔵の写本『古今和歌集』(伝東常縁筆)、『新古今和歌集 上』(伝世尊寺定成筆)、「新古今和歌集切」(伝世尊寺経朝筆)を常設展示室にて公開した。	3点



群馬県文学賞受賞作品展



群馬県立土屋文明記念文学館所蔵
『古今和歌集』・『新古今和歌集』写本特別公開

5 教育普及活動

(1) 企画展記念講演会

企画展名	開催日	演題・講師	受講者数
第 116 回企画展 「ようこそ絵本の世界へ」	7/24(日)	「絵本を描くということ」「わたしのワンピース」について 西巻茅子氏(絵本作家)	84名
第 117 回企画展 「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」	10/30(日)	「萩原朔太郎「郷土望景詩」について－「才川町」を中心として－」 野呂芳信氏(東洋大学文学部教授)	27名
	11/3(木・祝)	「詩とともに生きる」 松下育男氏(詩人)	43名
	11/13(日)	「上州から始まる詩の魅力」 蜂飼耳氏(詩人、立教大学文学部教授)	39名
第 118 回企画展 「文学者の愛用品－7Bの短くなるを愛しつつ使ひー」	2/26(日)	「祖父・土屋文明の思い出」 土屋安見氏(土屋文明孫)	75名
合計			268名



西巻茅子氏(7/24)



野呂芳信氏(10/30)



松下育男氏(11/3)



蜂飼耳氏(11/13)



土屋安見氏(2/26)

(2)企画展関連行事

企画展名	開催日	行事名・講師名等	受講者数
第 115 回企画展 「落語と文学」	4/17(日)	落語会 1「にゅう」「探偵うどん」 立川がじら氏(落語家)	72名
	5/3(火・祝) 5/15(日)	創作落語「焼きまんじゅうろう旅姿～玉村宿の決闘」 都家前橋氏(アマチュア落語家)	121名 81名
	5/8(日)	落語会 2「出来心」「野ざらし」 柳家小もん氏(落語家)	114名
	6/4(土)	落語会 3「加賀の千代」「青菜」 春風亭一之輔氏(落語家)	132名
第 116 回企画展 「ようこそ絵本の世界へ」	8/7(日)	ワークショップ「巨大絵本をつくろう」 アトリエヤマダ	100名
	8/7(日)	ワークショップ「出張図工室チョコキパタス」 アトリエヤマダ・中庄	32名
	8/11(木・祝) 9/4(日)	「わたしのワンピース」試着イベント	15名 27名
	8/14(日) 9/19(月・祝)	クラリネットとピアノによるロビーコンサート 神戸圭介氏、神戸道子氏	72名 118名
	8/25(木)	学生による読み聞かせ 共愛学園前橋国際大学短期大学部	31名
	8/27(土)	ワークショップ「版画をつくろう」中止 野村たかあき氏(絵本作家)	—
	9/11(日)	ワークショップ「紙折り絵本をつくろう」 野村たかあき氏(絵本作家)	20名

第 117 回企画展 「萩原朔太郎大全 2022 私 の同郷の善き詩人」	10/16(日)	「高校生によるマンドリンコンサート」 群馬県立高崎高等学校・群馬県立高崎女子高 等学校マンドリン部	110名
	11/27(日)	朔太郎と群馬の詩人を歌うⅠ「文士の作品に曲を つけて歌う「文学とフォーク」」 世田谷ピンポンズ氏(フォークシンガー)	53名
	12/4(日)	朔太郎と群馬の詩人を歌うⅡ「朔太郎をめぐる “ミュージック・ミュージアム”」 西田直嗣氏(群馬大学共同教育学部教授)ほか	72名
第 118 回企画展 「文学者の愛用品－7Bの短 くなるを愛しつつ使ふー」	2/12(日)	ワークショップ「チョコレートみたいなマグネットを つくろう」 萩原貴子氏(ラッピングディレクター)	32名
合計			1,202名



立川がじら氏(4/17)



都家前橋氏(5/3・5/15)



柳家小もん氏(5/8)



巨大絵本をつくろう
(8/7)



出張図工室チョコペタス
(8/7)



「わたしのワンピース」
試着イベント
(8/11・9/4)



クラリネットとピアノによる
ロビーコンサート
(8/14・9/19)



学生による読み聞かせ
(8/25)



野村たかあき氏
(9/11)



高校生による
マンドリンコンサート
(10/16)



世田谷ピンポンズ氏
(11/27)



朔太郎をめぐる
“ミュージック・ミュージアム”
(12/4)



チョコレートみたいな
マグネットをつくろう
(2/12)

(3)土屋文明記念文学講座

土屋文明の業績を記念し、短歌をはじめとする様々な文学をテーマに講演会を開催した。

回	開催日	講師	演題	受講者数
第1回	9/18(日)	永田和宏氏 (歌人、JT生命誌研究館館長、京都大学名誉教授)	「ことばの力ー言葉で思いを伝えること」	102名
第2回	3/4(土)	坂井修一氏 (歌人、情報理工学者、東京大学教授)	「戦争と短歌」	92名



第1回 永田和宏氏(9/18)



第2回 坂井修一氏(3/4)

(4)群馬県文学賞受賞記念講演会・受賞作品展

「群馬県文学賞」は、群馬県における文学活動の振興を図るため、1年間の文学各部門の創作活動の中から、特に優れた作品を選奨している。当館では受賞記念講演会と受賞作品のミニ展示を行った。

◇ 受賞記念講演会

令和4年度第60回群馬県文学賞受賞者4名のうち3名が下記のとおり講演した。

部門	受賞者	受賞作品と演題	開催日	受講者数
短歌	井田建氏	受賞作品「季節のなかで」(30首) 演題「短歌の小宇宙」	2/11 (土・祝)	97名
詩	清水静子氏	受賞作品「この場所、シリウス、地下鉄の街、大風の日に、声」 演題「書くための私の工夫」		
随筆	三輪途道氏	受賞作品「祈りのかたち」 演題「続祈りのかたち 榛名神社の随神像について」		

◇ 受賞作品展

展示名	開催期間	内容	点数
第60回 群馬県文学賞受賞作品展	2/1～3/21	受賞者4名(河合秀美氏受賞作品「春の空」(30句)含む)の色紙・図書・作品パネルを展示した。	7点



(5)学校教育との連携

① 短歌教室

著名な歌人を招き、学校で短歌についての授業を行う事業。

令和4年度「歌人が学校に！～選歌と講評から学ぶ～」実施校

学校	講師	学年	開催日	参加者数
太田市立太田中学校	東直子氏	2 学年 3 学級	10/6(木)	105名
前橋市立城東小学校	東直子氏	6 学年 2 学級	10/27(木)	52名
藤岡市立西中学校	佐佐木頼綱氏	1 学年 3 学級 2 学年 4 学級	11/9(水)	220名
伊勢崎市立板東小学校	笹公人氏	5 学年 2 学級	11/10(木)	64名
高崎市立上郊小学校	佐々木頼綱氏	4 学年 1 学級 5 学年 2 学級	11/11(金)	91名
館林市立第六小学校	東直子氏	6 学年 2 学級	11/16(水)	47名
高崎市立西部小学校	笹公人氏	5 学年 2 学級	11/25(金)	43名
利根沼田学校組合立利根商業高等学校	笹公人氏	2 学年 5 学級	1/25(水)	138名
合計				760名

② 学校団体等の受入

学校	内容	開催日	人数	引率者
高崎市立群馬南中学校(2学年)	職場体験	5/16(月)～5/20(金)	5名	—
高崎市立堤ヶ岡小学校(4学年)	常設展・企画展観覧、 歌碑見学、短歌の授業	5/26(木)	114名	6名
渋川市立渋川北小学校(6学年)	常設展・企画展観覧、 短歌の授業	6/10(金)	72名	4名
群馬県立高崎高等学校(2学年)	進路学習	7/6(水)	8名	—
中央情報経理専門学校	企画展観覧	8/22(月)	6名	2名
館林市立第四中学校(2学年)	短歌の授業 (オンライン)	10/13(木)	30名	—

高崎市立群馬中央中学校(2学年)	職場体験	11/7(月)~11/11(金)	5名	—
共愛学園前橋国際大学短期大学部	企画展観覧	11/14(月)	6名	1名
高崎市立中尾中学校(2学年)	職場体験	11/28(月)~12/1(木)	3名	—
群馬大学共同教育学部	常設展・企画展観覧	2/15(水)	4名	1名
合計			253名	14名

③ 高崎市立上郊小学校との連携

開催日	実施内容	学年	人数
6/17(金)	歌碑見学、短歌の授業を実施	4学年・ 特別支援学級	37名
7/1(金)	短歌の授業 中止	—	—
7/8(金)	短歌の授業を実施	5学年	54名
合計			91名

(6)地域との連携

① 高崎北部地区三館との連携

かみつけの里博物館(高崎市立)、日本絹の里(県立)と連携。「はにわとシルクと文学の高崎北ミュージアムトライアングル」として三館イベントカレンダーを作成しロビーに掲示、三館スタンプラリー、企画関係職員情報交換会などを実施した。

また、日本絹の里及び当館において、相互の観覧料2割引券を発行した。

◇ 三館スタンプラリー

7月16日～9月19日で実施。三館を観覧した方に景品として、三館の招待券、糸山展不織布バッグを贈呈した。

◇ 三館連携協議会の開催状況

開催日	議題	会場
6/9(木)	・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画案	当館
2/3(金)	・企画関係職員情報交換	当館
3/6(月)	・令和4年度事業報告案 ・令和5年度事業計画案	かみつけの里博物館

② 高崎市文化協会群馬支部との連携

イベント名及び開催日	内容等
暮鳥・文明まつり 12/4(日)	高崎市市民活動センターソシアスにて開催。本年のテーマは「和」。 テーマに合わせた暮鳥の詩、文明の短歌を当館職員が選び、『入賞作品集』に解説を執筆。当日は会場で館長が群馬県立土屋文明記念文学館賞の授与及び挨拶をした。

③ 地域のイベントへの参加

イベント名及び開催日	内容等
ぐんま「はにわの里」夏まつり 8/21(日)	例年、ワークショップ等で参加するが、本年度は花火のみのため参加なし。
かみつけの里古墳祭り 10/16(日)	企画展の周知及びぬりえを実施。参加者には当館オリジナルシールを贈呈した。

(7)子ども向け事業

① 文学クイズ

1階ロビーに設置された文学クイズは、レベル(初級・上級)のほか、プレイモードを1人または2人での対戦から選んで挑戦できる。所定の点数をクリアすると名前と点数が印字された賞状をもらえる。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

② 絵本のひろば

1階ロビーに設置された絵本コーナーは、絵本に囲まれた空間で、靴をぬいで絵本を読むことができる。

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため閉鎖していたが、本年度は「ようこそ絵本の世界へ」オープンに合わせて7月16日から再開。

③ 常設展ワークシート

常設展「三十六歌人」コーナーを見学しながら答えるワークシートを用意。

④ 企画展関連

企画展ごとにワークシートを用意。参加者には当館オリジナルクリアファイルやシールを贈呈した。

企画展名	内容等
「落語と文学」	クロスワードパズル
「ようこそ絵本の世界へ」	クロスワードパズル、ぬりえ、感想文
「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」	謎解きクイズ
「文学者の愛用品－7Bの短くなるを愛しつつ使ふー」	クロスワードパズル、愛用品エピソード

(8) ボランティア活動

① 活動分野

- ・ミュージアムショップ…… ミュージアムショップの運営など
- ・ティーサービス……… 和室での抹茶や煎茶のサービス
- ・環境美化……… 花の提供、清掃、資源ゴミ回収など
- ・広報……… 勤務先や近所などへの当館事業の広報、宣伝
- ・おはなしのへや……… 館内外での読み聞かせや紙芝居実演など

② ボランティア活動状況

◇ 登録者数220名(令和4年度末現在)

◇ 活動実績

活動分野	活動実績
ミュージアムショップ	毎月1回の定例会の開催、商品の棚卸し・整理をした。土屋文明「青き上に」一筆箋専用封筒を作製・発売した。群響アンサンブル『心に響く音楽会 in 文学館』を開催した。
ティーサービス	※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。
環境美化	駐車場等の草刈りを行った。
広報	企画展のチラシ等を配布して広報活動を行った。
おはなしのへや	本年度実施なし。

(9) 自主学習会

原則、年10回開催。

学習会名	講師名	受講者数
県立文学館 短歌の会	田村 ^{はじめ} 元氏	23名
県立文学館 短歌相互学習会	(歌人、『NHK 短歌』誌上添削教室添削者、「りとむ」所属)	18名
県立文学館 はじめての俳句	鈴木 ^{しょうわ} 章和氏 (俳人、NHK学園俳句専任講師・NHK ラジオ「文芸選評」 選者、「翡翠」主宰)	20名
県立文学館 俳句学習会		9名
県立文学館 章和俳句会		13名
県立文学館 翠句会		9名
県立文学館 詩の講座	関口将夫氏 (詩人、画家)	10名
県立文学館 絵手紙の会	福田登美恵氏 (日本絵手紙協会公認講師)	15名

県立文学館 古典学習会 源氏物語	吉永哲郎氏（源氏物語を読む「 ^{すおう} 蘇芳の会」主宰）	70名
合計		187名

(10)広報活動

① 企画展ポスター・チラシ配布

年4回開催する企画展に合わせて、開催の3週間前に関係機関に配布して広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

② 「施設概要・令和5年度事業案内」配布

年度末に配布して、翌年度の企画展や各種イベント等の事業について広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

③ 県メディアプロモーション課関係広報

県メディアプロモーション課が所管する広報媒体「ぐんま広報」を通じて、企画展や各種イベント情報について広報した。

④ 県内報道機関への PR

県内報道機関に、企画展や講演会などのイベント情報を提供・取材してもらい、新聞等の活字メディアやテレビ・ラジオ等の電波媒体で報道してもらうよう努めた。

(主な報道機関等)

朝日新聞前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、産経新聞社前橋支局、群馬よみうり、群馬東部よみうり、上毛新聞社(ぱれっと編集室、TAKATAI 編集室含む)、桐生タイムス、朝日ぐんま、日本放送協会前橋放送局、群馬テレビ、エフエム GUNMA、ラジオ高崎、まえばし CITY エフエム等

⑤ 広報誌掲載

タウン情報誌、月刊情報誌、短歌関連雑誌等の広報誌に情報提供した。

⑥ 刊行物の配布

企画展図録等について、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館等に配布した。

⑦ 公式ホームページ

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止について、館の感染対策等を告知
- ・企画展、講演会、文学講座などイベント情報を掲載
- ・文学資料の閲覧・検索サービス
- ・「特別館長日記」更新

⑧ 公式 Instagram

- ・イベント中止のお知らせ
- ・通信販売のお知らせ
- ・企画展のお知らせ
- ・プレゼント企画の告知
- ・投稿件数：89件（企画展62件、常設展5件、特別展示1件、館一般21件）
- ・フォロワー数：486人（令和3年度末から111人増）

⑨ 公式 Twitter

- ・企画展、講演会等のイベント予定や参加募集及び募集終了の告知
- ・企画展紹介ミニ動画
- ・イベント開催時の混雑への注意喚起
- ・イベントの報告
- ・通信販売のお知らせ
- ・プレゼント企画の告知
- ・記念日や時候に合わせた「今日の土屋文明短歌」の紹介
- ・ゆかりの文学者の命日・誕生日情報など
- ・投稿件数：335件（企画展206件、常設展40件、特別展示3件、資料・書籍0件、館一般86件）
- ・フォロワー数：1,006人（令和3年度末から146人増）

	インプレッション (閲覧)	エンゲージメント(反応)				トップ Tweet
		エンゲージ メント率	リンクの クリック	リツイート	いいね	
4 月	46,713	3.80%	195	353	353	4/16 本日開幕 落語と文学(13,710)
5 月	44,303	3.80%	151	147	350	5/11 朔太郎忌 当館も「萩原朔太郎大全2022」に参加(5,378)
6 月	50,820	2.40%	85	91	235	6/5 春風亭一之輔師匠の落語会が開催されました！ (25,314)
7 月	22,761	3.20%	92	110	192	7/16 ようこそ絵本の世界へ開催(4,421)
8 月	20,628	3.30%	52	84	144	8/3 土屋文明記念文学講座開催(2,307)
9 月	26,101	3.70%	74	129	249	9/7 予告「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」(23,688)
10 月	66,591	3.10%	99	215	465	10/8 企画展「私の同郷の善き詩人」開催中(9,396)
11 月	56,027	3.50%	86	269	603	11/27 世田谷ピンボンズさんによるコンサートを開催 (4,494)
12 月	45,029	3.20%	134	182	393	12/12 予告「文学者の愛用品」(3,987)
1 月	15,762	2.40%	40	41	128	1/22 イベントのお申込はこちら(2,909)
2 月	51,966	3.20%	36	175	517	2/1 NHK 朝ドラ「舞いあがれ」の登場人物(歌人)が影 響を受けた歌人のひとりに土屋文明の名前(9,610)
3 月	58,131	3.40%	97	157	280	3/10 予告「新進気鋭の作家たち－阿部智里・如月かず さ・武内涼・友井羊の世界－」(33,777)
合計	504,832		1,141	1,953	3,909	

⑩ 群馬県公式 YouTube チャンネル tsulun0s で動画公開

- ・半田昌規氏講演 「最新技術を使った『新古今和歌集』写本及び古筆切の修理」
- ・海野圭介氏講演 「土屋文明記念文学館本を読みつつ考える『新古今和歌集』の歴史」
- ・立川がじら氏落語会 「にゅう」「探偵うどん」(7月11日～9月30日)
- ・柳家小もん氏落語会 「出来心」「野ざらし」(7月11～9月30日)
- ・永田和宏氏講演 「ことばの力ー言葉で思いを伝えること」(12月2日～3月24日)
- ・蜂飼耳氏講演 「上州から始まる詩の魅力」

(11)刊行物の発行

種類	名称	規格	部数
図 録	第115回企画展 「落語と文学」	A4判 8ページ	700 部
	第116回企画展 「ようこそ絵本の世界へ」	A4判 8ページ	1,100 部
	第117回企画展 「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」	A4判 40ページ	1,000 部
紀 要	令和4年度 紀要「風」 26号	A4判 54ページ	500 部
チ ラ シ ・ ポ ス タ ー	第115回企画展 「落語と文学」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	30,000 部 400 部
	第116回企画展 「ようこそ絵本の世界へ」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	110,000 部 800 部
	第117回企画展 「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	35,000 部 400 部
	第118回企画展 「文学者の愛用品－7Bの短くなるを愛しつつ使ふ－」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	28,000 部 400 部
他	施設概要・令和5年度事業案内	両観音折り	20,000 部

6 資料収集・調査研究

(1)資料収集

(令和4年度末現在)

資料区分	購入	寄贈	その他(製作等)	4年度合計	収蔵資料合計
特別資料	3	186	9	198	31,616
雑誌・図書	402	1,307	9	1,718	176,237
視聴覚資料	11	1	1	13	256
4年度合計	416	1,494	19	1,929	
収蔵資料合計	47,903	158,668	1,538		208,109

※合計点数は登録作業済の点数。

◇ 主な購入資料

- ・ちりめん本『瘤取』『花咲爺』
- ・『朱楽』2巻7号～12号(合本)
- ・『高島学校百年史』
- ・『樋口一葉全集』

◇ 主な寄贈資料

- ・雑誌『女人短歌』135点
- ・岡本癖三酔まくり1点
- ・福田康夫旧蔵書幅2点

(2)資料の整理・保存管理

① 資料整理

収集した資料等について、調査、登録(資料保存のための装備)、画像データの磁気化(スキャニング・写真撮影を含む)などの作業を行った。

② 保存管理

◇ 施設燻蒸

虫菌害防止対策として、収蔵施設(収蔵庫・書庫)と展示施設(常設展示室・企画展示室)の燻蒸を隔年で実施している(年1回)。

本年度は、展示施設(常設展示室)の燻蒸を実施した。

◇ 資料燻蒸

令和4年度6月までに収蔵した資料については、施設燻蒸のときに合わせて実施した。

7月以降に収集した資料については、高崎倉庫株式会社に依頼し、実施した。

◇ 日常管理

- ・書庫、展示室の状況について、毎日(朝・夕)見回りして確認している。
- ・収蔵庫・書庫、展示室の温湿度計の計測記録について、週に1回確認している。

◇ 資料修理

萩原朔太郎著『純情小曲集』、雑誌『ARS』『詩歌』等、7点の修理と、雑誌『朱楽』の合本崩しを行った。

(3)資料貸出

次の5件72点の資料について、借用の申請に基づき貸出を承認した。

貸出資料名	展覧会名	開催期間	展示会場(施設名等)
大手拓次詩稿「暁の香料」、雑誌『異香』など (36点)	すべてのものをすてて、わたしはよみがへる。－大手拓次展	5/21～9/19	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
雑誌『小学五年生』1巻1号創刊号(1点)	学年誌100年と玉井力三展 －描かれた昭和の子ども－	9/16～11/15	株式会社小学館
山村暮鳥書簡小山茂市宛・花岡謙二宛、山村暮鳥詩集『La bonne chanson.』など (12点)	萩原朔太郎大全 2022－詩の岬－	10/8～12/18	いわき市立草野心平記念文学館
石川啄木詩稿ノート『黄草集』(複製)、雑誌『スバル』など(6点)	見よ、友情の翼、高く飛べるを アニメ『啄木鳥探偵處』展	2022/10/15～ 2023/1/22	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
森田素夫手入稿「暗い眼窩」、画額「自画像」など (17点)	森田素夫顕彰展	12/12～12/23	渋川市役所本庁舎1階市民ホール

※ 移動展の資料貸出を除く。

7 利用案内・位置図

(1)休館日

- ① 火曜日(祝日の場合は翌日、4月29日から5月5日までの間及び8月15日を含む週を除く)
- ② 年末年始(12月26日から翌年1月6日まで)
- ③ 燻蒸のための臨時休館日
- ④ 企画展前後の展示替期間

(2)開館時間

午前9時30分から午後5時まで(観覧受付は午後4時30分まで)

※ ただし、第1～第3研修室及び和室は、午前9時30分から午後9時まで

(3)企画展観覧料

- ・一般410円、大高生200円(常設展のみ 一般200円、大高生100円)。
- ・第116回企画展「ようこそ絵本の世界へ」、第117回企画展「萩原朔太郎大全 2022 私の同郷の善き詩人」では一般500円、大高生250円。
- ・20名以上の団体は2割引。
- ・中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名、県民の日(10月28日)観覧者は無料。

(4)施設利用料

文学関係行事等に利用できる。

区分		午前	午後	夜間	1日
		9:30～12:30	13:00～17:00	17:00～21:00	9:30～21:00
施設	企画展示室	2,640円	3,550円	—	6,190円
	第1研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第2研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第3研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	和室	610円	830円	830円	2,270円

※ 付属設備を使用する場合は、別に利用料が必要。

(5)位置図



※ 公共交通機関

① バスを利用される場合

- ・高崎駅西口2番乗り場から群馬バス「^{しんとうむら}しんとう温泉・榛東村役場」行→「^{ほ・ど・た}保渡田」下車
- ・前橋駅北口5番乗り場から関越交通バス「土屋文明文学館」行→終点「土屋文明文学館」下車

② タクシーを利用される場合

- ・高崎駅西口から約20分
- ・高崎問屋町駅西口から約15分
- ・新前橋駅西口から約15分